

### ターン・タ・タン行進曲

今夜のメイン・プログラム、ベートーベンの第7交響曲は、全曲を通して大変エネルギッシュで、練習の時ですえ、通して演奏するともうへとへとになるくらい、演奏者にとってはハードな曲です。よくこんな曲を書いたものだとつくづく感心してしまいます。

さて、その四つの楽章の中で、第1楽章の主部がほとんど「ターン・タ・タン (♪♪♪)」のリズムで貫かれているのは有名です。ところが、このリズム、1回や2回ならそれほどのことではないのですが、延々と続くとなると、これが「タン・タ・ターン (♪♪♪)」というリズムになってしまいがちです。第1楽章にとって、「♪♪♪」のリズムは大変重要で、この楽章のひとつのエッセンスと言ってよいものです。そこで演奏上のひとつの要諦は、やはりテンポでしょう。もちろん、プロならば、どんなテンポでもできるでしょうし、できなければならないはずですが、アマチュアにとってはなかなかそうはいきません。速すぎればリズムが前述したようになりがちですし、逆に遅すぎればリズムが尻もちをついたようになって音楽が前進しなくなってしまいます。

さあ、そこで休憩後の指揮者の入場に御注目ください。にこやかに笑っているでしょうが、何となく笑顔がこわばっていませんか。歩き方が変ではありませんか。もしそうなら、きっと彼は心の中であのリズムを歌いつづけ、歩きながら最適のテンポをさぐっているのです。すなわち心の中の「ターン・タ・タン」行進曲にのって彼は歩いてきたのでしょう。

冗談はともかく、正確なリズムと前進するエネルギッシュな音楽を実現し、第4楽章のクライマックスのカタルシスに至るまで、私達全員、精神力と体力をふりしぼって演奏しようと思っています。なにしろ、「精神的にも肉体的にも自分がある程度犠牲にするぐらいの覚悟がなければ演奏は失敗する」(ワインガルトナー)とされています。えらい曲です。……